

『結婚・子育てに関する県民意識調査』

結果概要

令和6年7月

石川県健康福祉部
少子化対策監室

目 次

■調査概要	1
■調査結果	
0. 回答者属性	2
1. 結婚に関する意識	5
2. 子どもを持つこと、育てることに 関する意識	8
3. 子育ての環境に関する状況・意識	10
4. 結婚に対する意識	20
5. ワークライフバランスに関する意識	21
6. 結婚、出産、子育てなどに関する 自由意見	25
アンケート票	38

調査概要

- 調査目的 : 県民の結婚・出産・子育てに関する意識を調査し、令和2年に策定した「いしかわエンゼルプラン2020」改定のための基礎資料とする
- 調査地域 : 石川県全域
- 調査対象 : 満18歳以上45歳以下の男女
- 抽出数 : 3,500人
- 回収数 : 1,156票（回収率33.0%）
（郵送532通、Web624通）
- 対象者抽出 : 層化二段無作為抽出法
※層化基準：19市町をそれぞれ1つの層とする
- 抽出名簿 : 住民基本台帳
- 調査方法 : 郵送またはインターネットにより回答
- 調査期間 : 令和6年6月7日～6月30日

結果詳細

0. 回答者属性

(単位: %、以下同様)

【性別】

	n	男性	女性	回答しない
全体	1156	37.0	62.4	0.6

【年齢】

	n	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～45歳	無回答
全体	1156	4.7	13.1	15.0	18.9	19.6	28.4	0.3
男性	428	5.4	12.6	14.5	17.8	18.7	30.4	0.6
女性	721	4.2	13.2	15.4	19.7	20.4	26.9	0.2

【居住地】

	n	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市
全体	1156	43.8	2.9	10.3	0.9	0.3	3.5	1.5
男性	428	43.9	2.3	9.8	0.2	0.2	4.0	1.9
女性	721	43.7	3.3	10.5	1.2	0.3	3.2	1.2

かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町
2.8	10.6	5.2	7.5	0.3	3.7	1.7
3.0	11.7	5.1	7.9	0.5	3.3	1.2
2.6	10.0	5.1	7.4	0.3	4.0	2.1

志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町	無回答
1.2	1.3	1.1	0.5	0.8	0.1
1.4	1.2	1.2	0.5	0.7	0.0
1.1	1.4	1.0	0.6	0.7	0.3

【仕事】

	n	正社員・職員	正社員・職員以外	自営業・家族従業	専業主婦・主夫	無職	学生	その他	無回答
全体	1156	61.9	16.3	4.7	4.7	3.6	8.1	0.6	0.1
男性	428	75.9	4.7	5.8	0.2	3.0	9.3	0.7	0.4
女性	721	53.4	23.3	4.0	7.4	3.9	7.4	0.5	0.1

【親との同居】

	n	親と同居している	同居していないが、親が近くに住んでいる	同居していない。また親は近くに住んでいない	無回答
全体	1156	38.7	40.9	20.2	0.2
男性	428	42.3	39.5	17.8	0.4
女性	721	36.3	42.2	21.5	0.0

【結婚経験】

	n	している	していない（離婚・死別した）	一度も結婚したことはない
全体	1156	63.1	2.9	34.0
男性	428	59.1	1.4	39.5
女性	721	65.9	3.7	30.4

【子ども有無】

	n	1人	2人	3人	4人	5人以上	いない
全体	1156	14.3	27.9	12.6	2.2	0.5	42.5
男性	428	12.9	25.5	12.4	1.4	0.2	47.6
女性	721	15.3	29.5	12.8	2.8	0.7	38.9

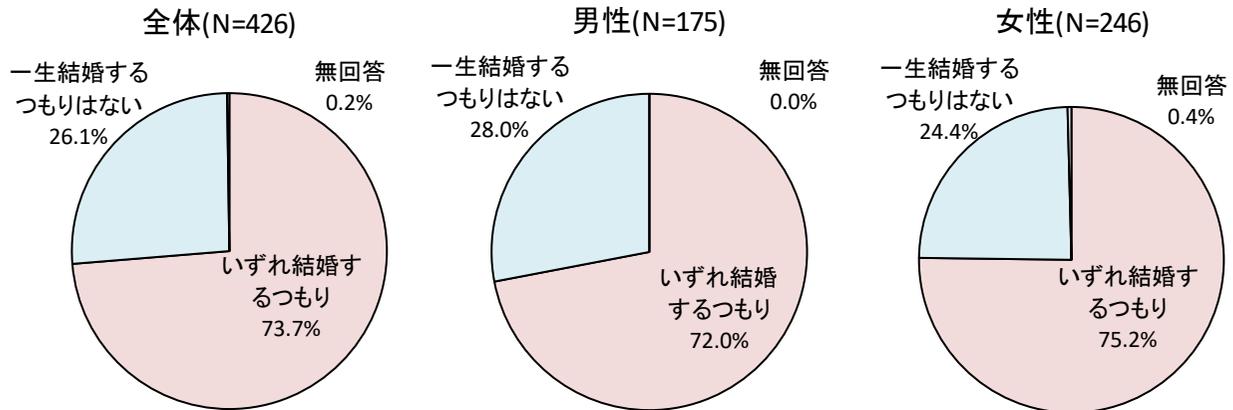
【末子年齢】

	n	0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～12歳	13～15歳	16歳以上	無回答
全体	666	36.8	24.9	16.8	12.9	4.8	3.0	0.8
男性	224	36.2	24.6	18.3	14.7	2.2	2.2	1.8
女性	440	37.3	25.0	16.1	11.8	6.1	3.4	0.3

1. 結婚に関する意識（未婚の方のみ聴取）

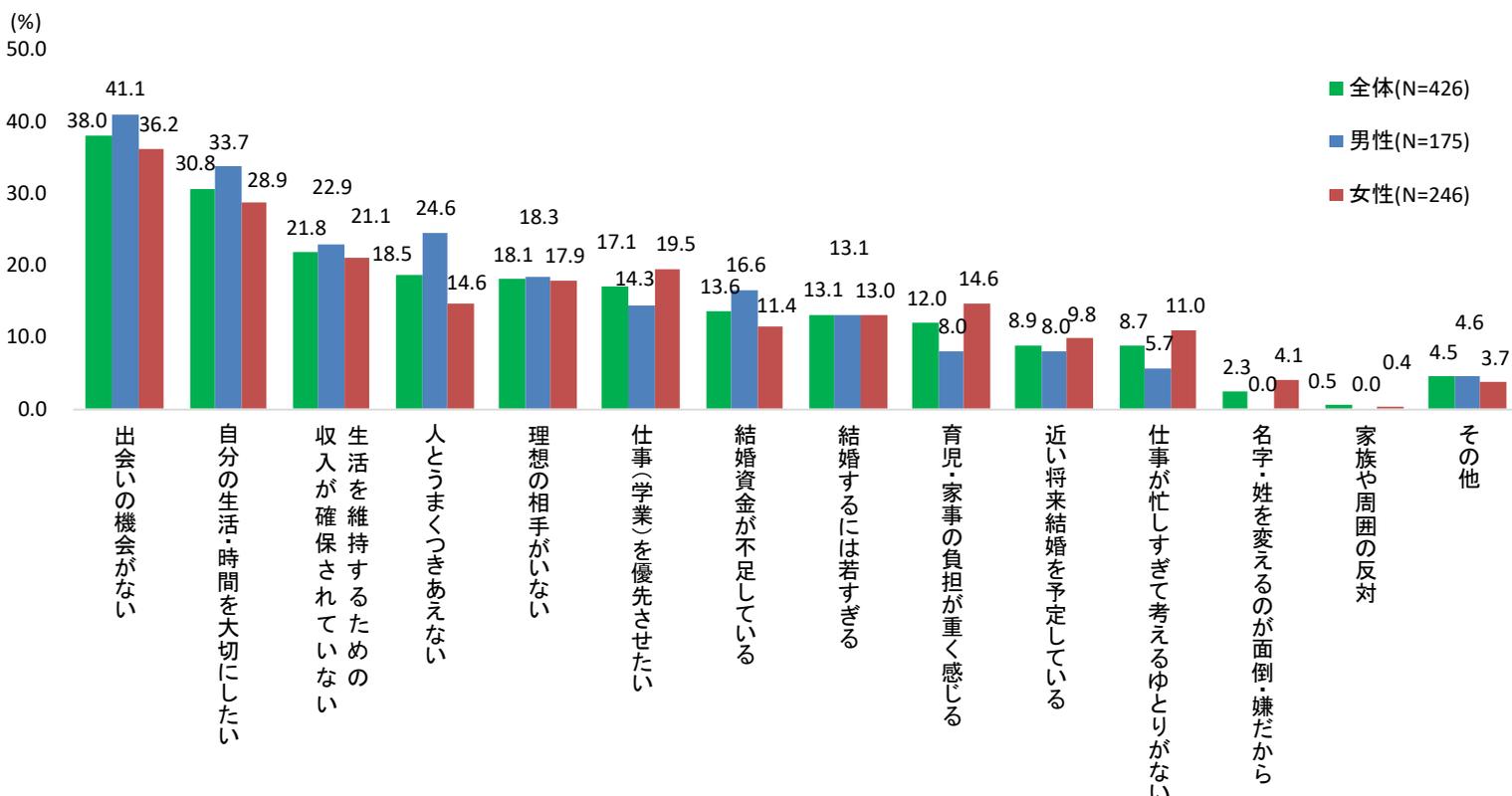
■将来的な結婚願望 —将来結婚したいと思いますか—

- 未婚者のうち、全体で73.7%(男性72.0%、女性75.2%)が結婚したいと考えている。前回調査から増加しているが、前は「わからない」の選択肢があり、単純比較はできない。〔前回調査（平成31年3月）：全体62.8%(男性59.3%、女性64.3%)〕
- 性別では、女性の方が高い。



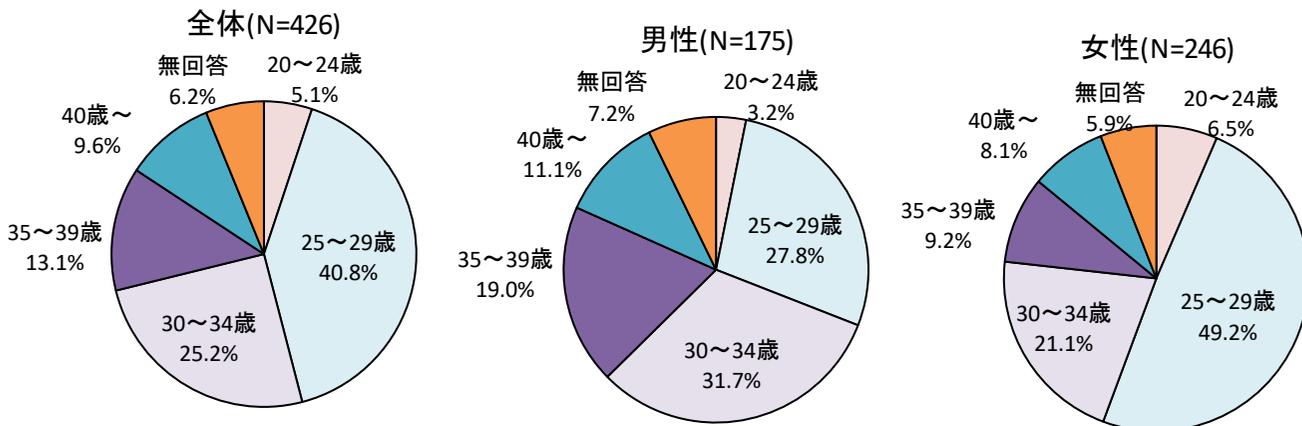
■結婚していない理由 —結婚されていない理由として、あてはまるものを選んでください（3つ以内）—

- 一番多い理由は、「出会いの機会がない」が全体で38.0%(男性41.1%、女性36.2%)〔前回調査：全体29.3%(男性28.8%、女性29.5%)〕、次いで、「自分の生活・時間を大切にしたい」が全体で30.8%(男性33.7%、女性28.9%)〔前回調査：全体38.3%(男性42.4%、女性36.4%)〕となっており、前回と1位と2位の順位が入れ替わる結果となっている。
- 特に男性で「出会いの機会がない」が41.1%〔前回調査：28.8%〕で最も多く、前回調査に比べ12.3ポイント高くなっている。女性でも「出会いの機会がない」が36.2%〔前回調査：29.5%〕で最も多く、前回調査に比べ、6.7ポイント高くなっている。



■結婚したい年齢

○男性の31.0%が20代のうちに結婚を望むのに対し、女性は55.7%と半数以上が20代のうちの結婚を望んでいる。男性の平均は31.9歳、女性は29.7歳となった。

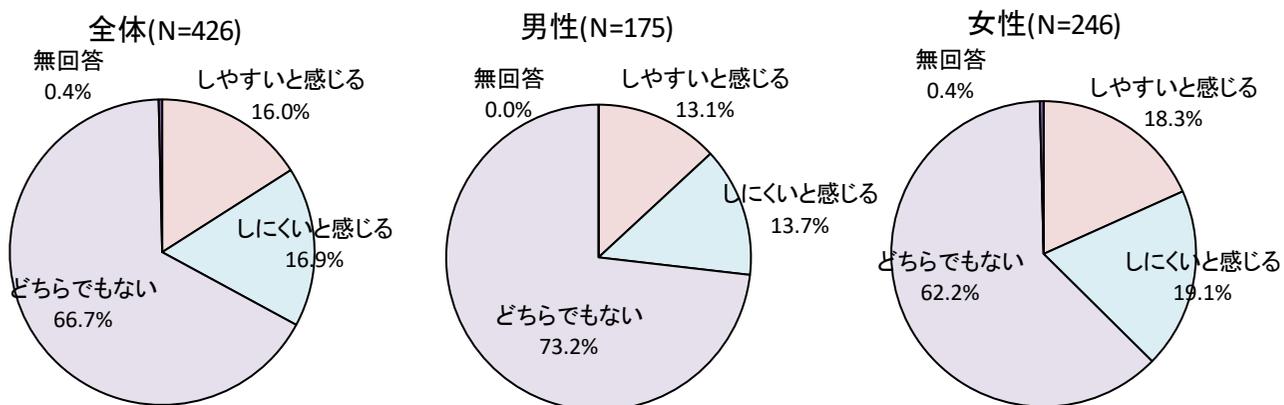


■石川県は結婚しやすいか

○一番多い回答は「どちらでもない」が全体で66.7%（男性73.2%、女性62.2%）となっている。

○男性より女性のほうが、結婚しやすいと感じる割合が高い結果となった。

「どちらでもない」は男性のほうが女性より11.0ポイント高くなっている。

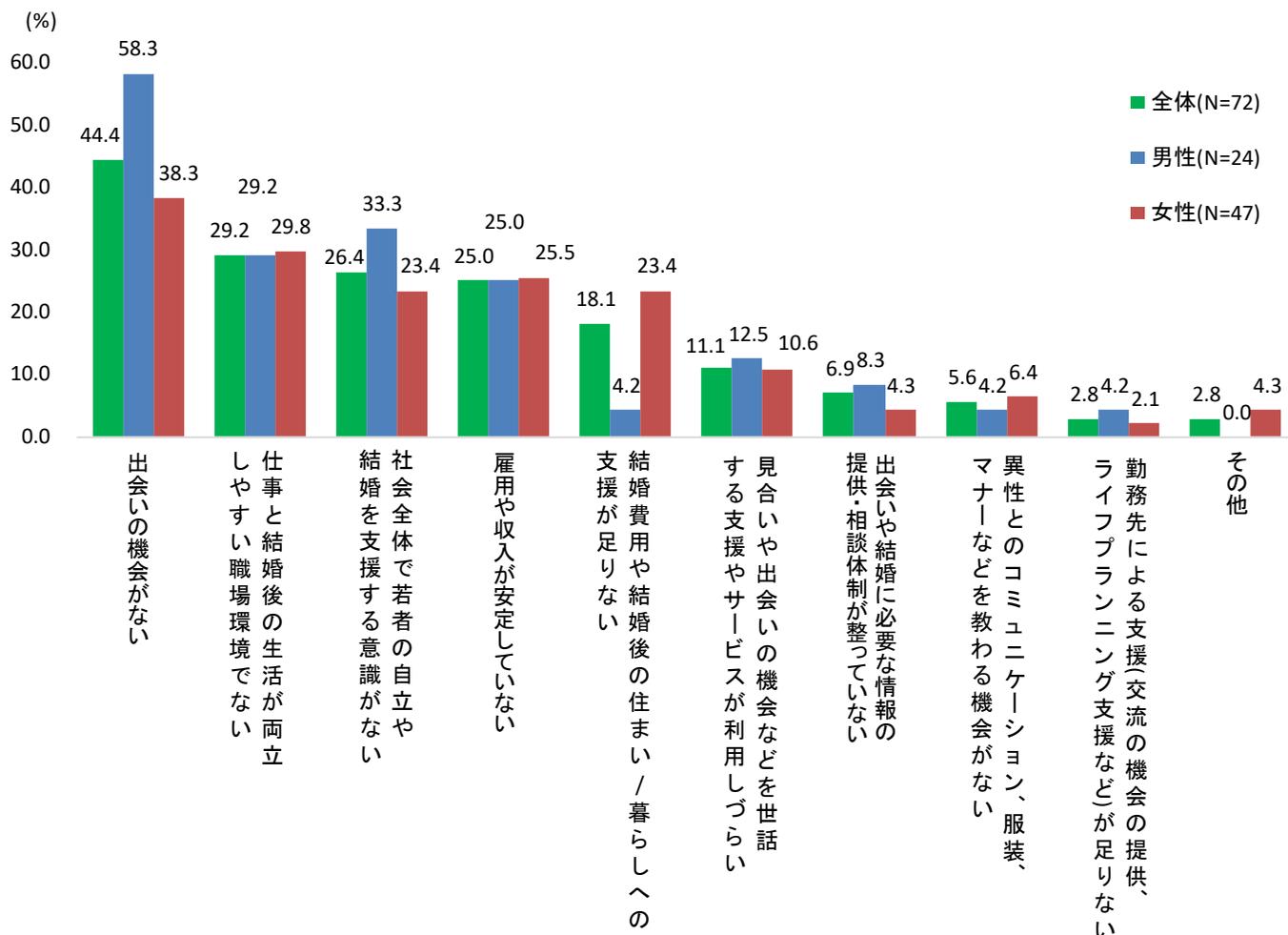


■結婚しにくい理由

○結婚しにくい理由は、「出会いの機会がない」が最も多く、全体で44.4%(男性58.3%、女性38.3%)と男女共に最も多い理由となっている。

○次いで多い理由は、「仕事と結婚後の生活が両立しやすい職場環境でない」が全体で29.2% (男性29.2%、女性29.8%)となっている。

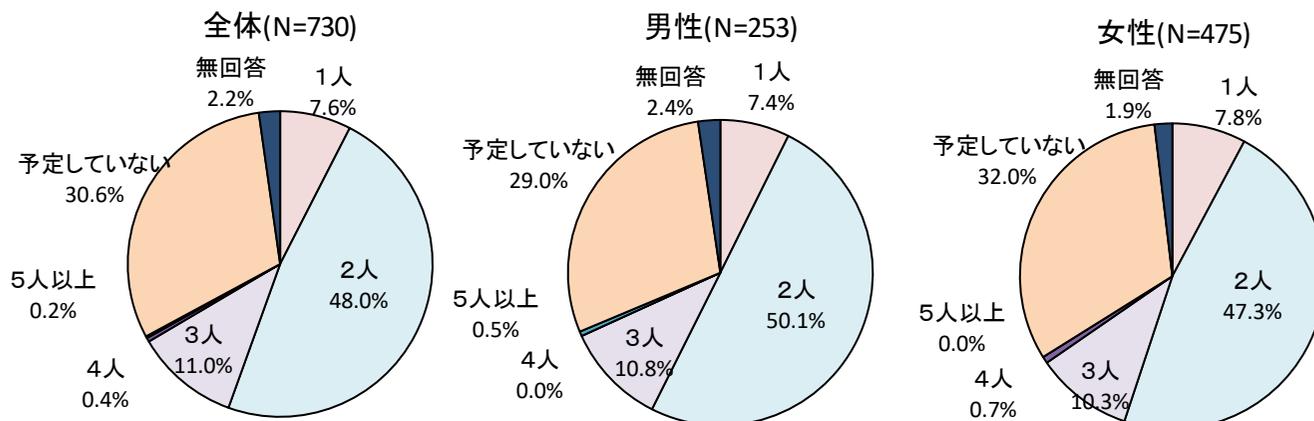
○男女差の大きい項目では「出会いの機会がない」で男性のほう女性がより、20.0ポイント高くなっている。



2. 子どもを持つこと、育てることに対する意識（子どもがいない方のみ聴取）

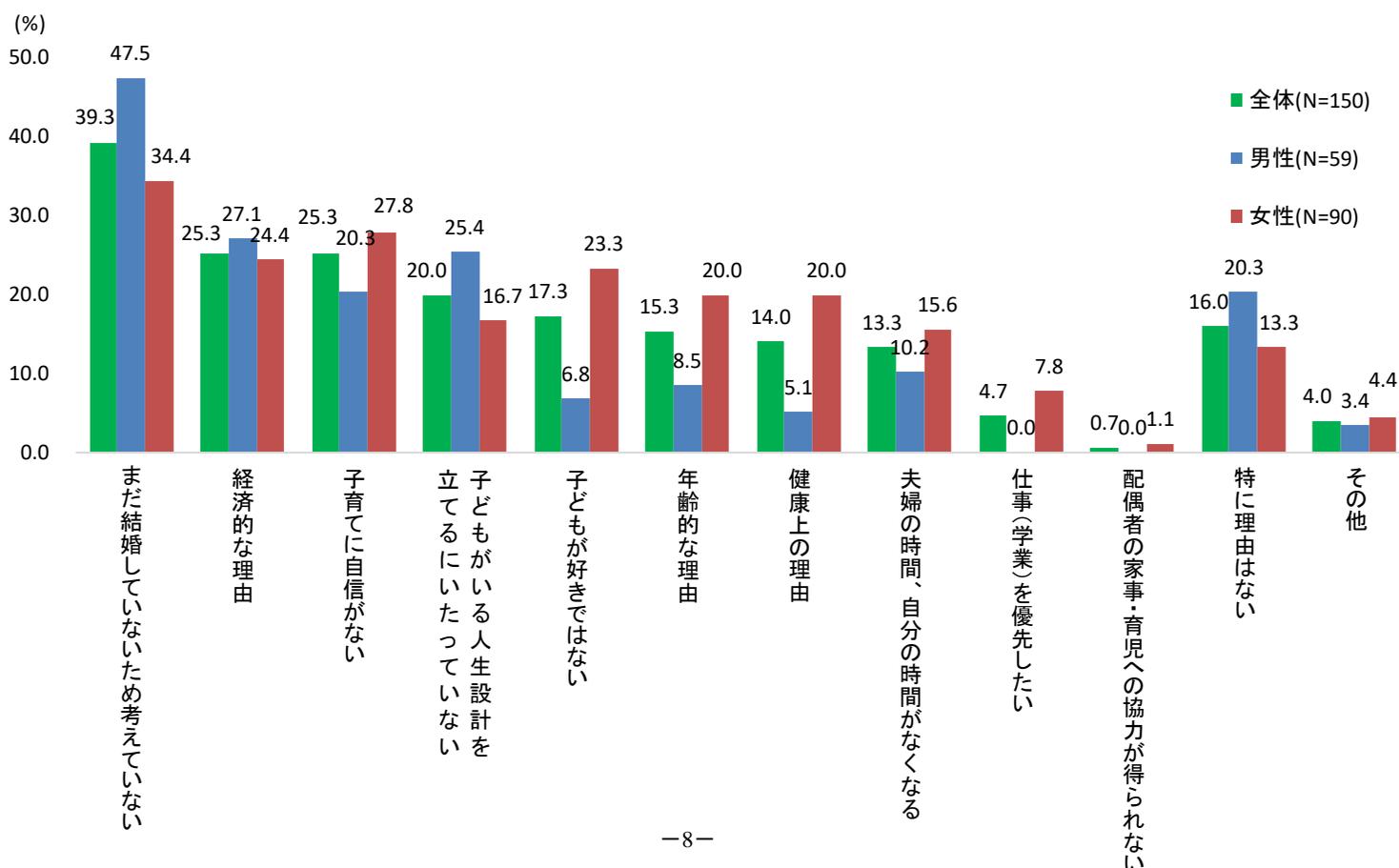
■理想の子ども人数 —（お子さんがいない方）子どもの数は何人が理想ですか—

- 子どもがいない方や未婚者の理想の子ども人数は、「2人」が全体で48.0%と最も多く、次いで、子どもを「予定していない」が30.6%〔前回全体20.5%〕と前回より10.1ポイント高くなっている。
- 性別では、子どもを「予定していない」人は、男性28.9%、女性32.0%となっており、〔前回：男性13.5%、女性24.4%〕男性が前回にくらべ約15ポイント高くなっている。



■子どもを予定しない理由 —（子どもを予定していない方に）その主な理由として、あてはまるものを選んでください（3つ以内）—

- 子どもがいない方が、子どもを「予定していない」理由は、全体で「まだ結婚していないため考えていない」が、全体39.3%（男性47.5%、女性34.4%）〔前回調査：全体34.5%（男性38.5%、女性33.3%）〕と最も多くなっており、次いで「経済的な問題」で全体25.3%（男性27.1%、女性24.4%）〔前回調査：全体21.8%（男性53.8%、女性11.9%）〕、「子育てに自信がない」全体25.3%（男性20.3%、女性27.8%）〔前回調査：全体21.8%（男性23.1%、女性21.4%）〕となっている。
- 「まだ結婚していないため考えていない」を除くと、男性では「経済的な理由」、女性では「子育てに自信がない」が最も多い理由となっている。

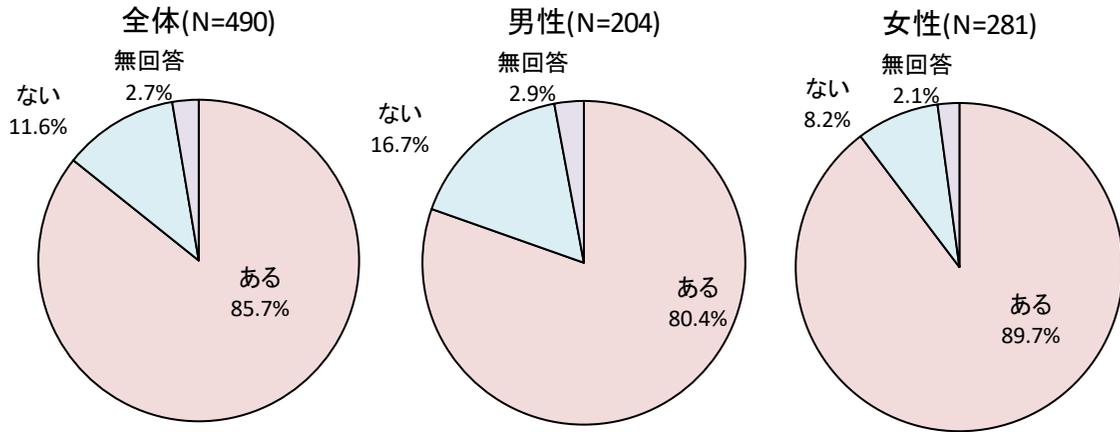


■子どもを育てることに対する不安 —子どもを育てることに対して不安はありますか—

○子どもがいない方や未婚者のうち、子どもを育てることに「不安がある」と回答した人は、全体で85.7%(男性80.4%、女性89.7%)と、前回調査より、約10ポイント多くなっている。

〔前回調査：全体75.7%(男性78.1%、女性74.4%)、前々回調査：全体63.2%(男性56.5%、女性68.3%)〕

○性別では、女性が男性より高くなっており、前回調査と逆になっている。

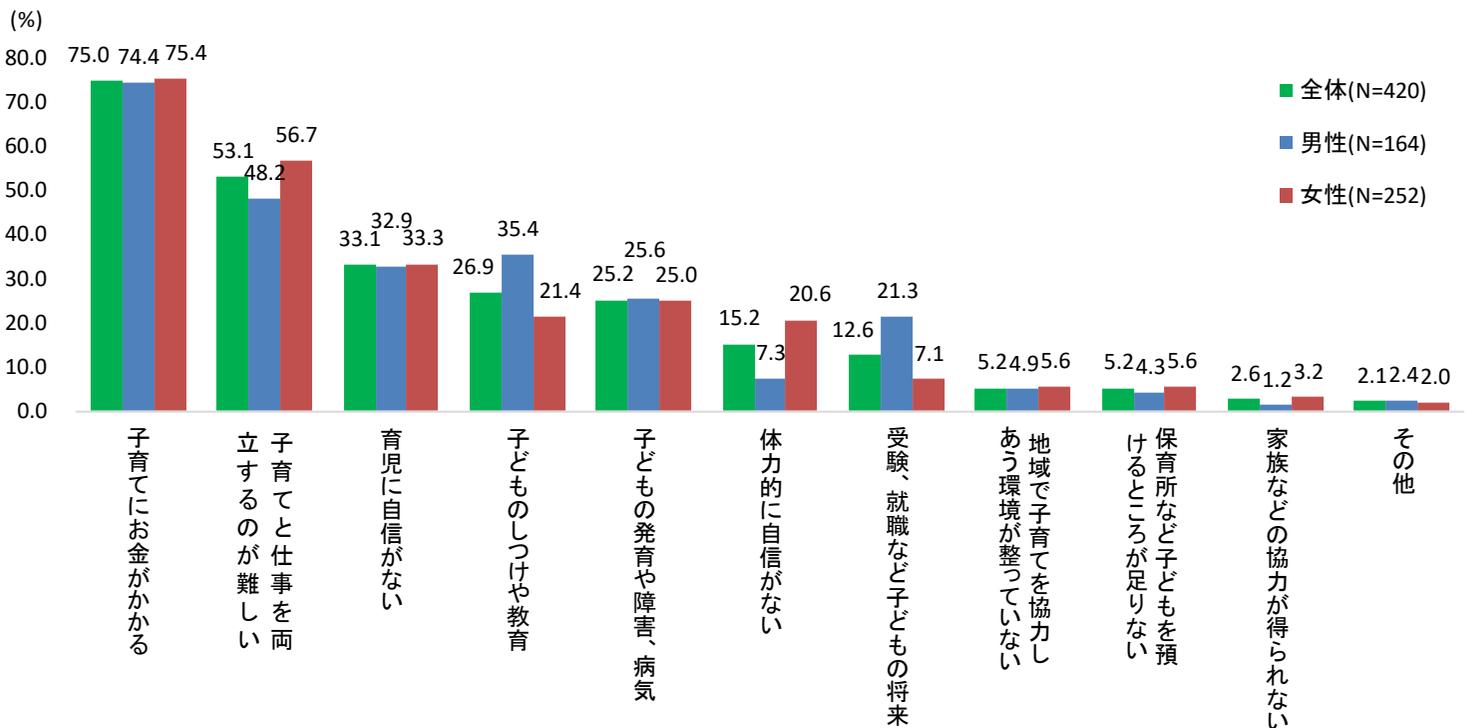


■子どもを育てることに対する不安要素 —(不安がある方に)どのような不安ですか(3つ以内)—

○子どもがいない方や未婚者が子どもを育てることについて「不安」を感じる理由で、一番多いものは、「子育てにお金がかかる」が全体で75.0%(男性74.4%、女性75.4%)となっており、前回調査の全体65.5%(男性73.3%、女性60.9%)と変わっていないが、10ポイント増加している。男女とも一番目に挙げている。

○二番目に多い理由は、「子育てと仕事を両立するのが難しい」が全体で53.1%(男性48.2%、女性56.7%)〔前回：47.3%(男性36.0%、女性53.9%)〕となっており、男性のポイントが12.2ポイント増加した。

○そのほかの理由として、「育児に自信がない」「子どものしつけや教育」などが続いている。

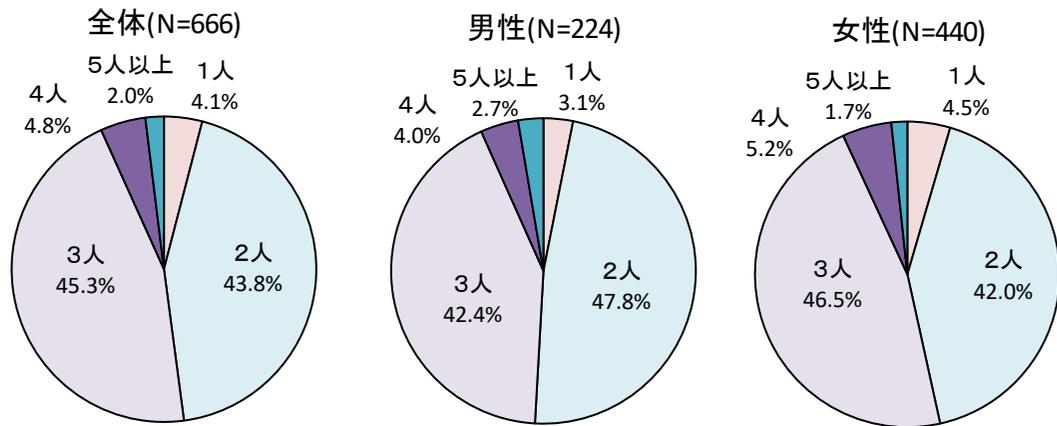


3. 子育ての環境に関する状況・意識（子どもがいる方のみ聴取）

■理想の子ども人数

－（お子さんがいる方に）子供の数は何人が理想ですか－

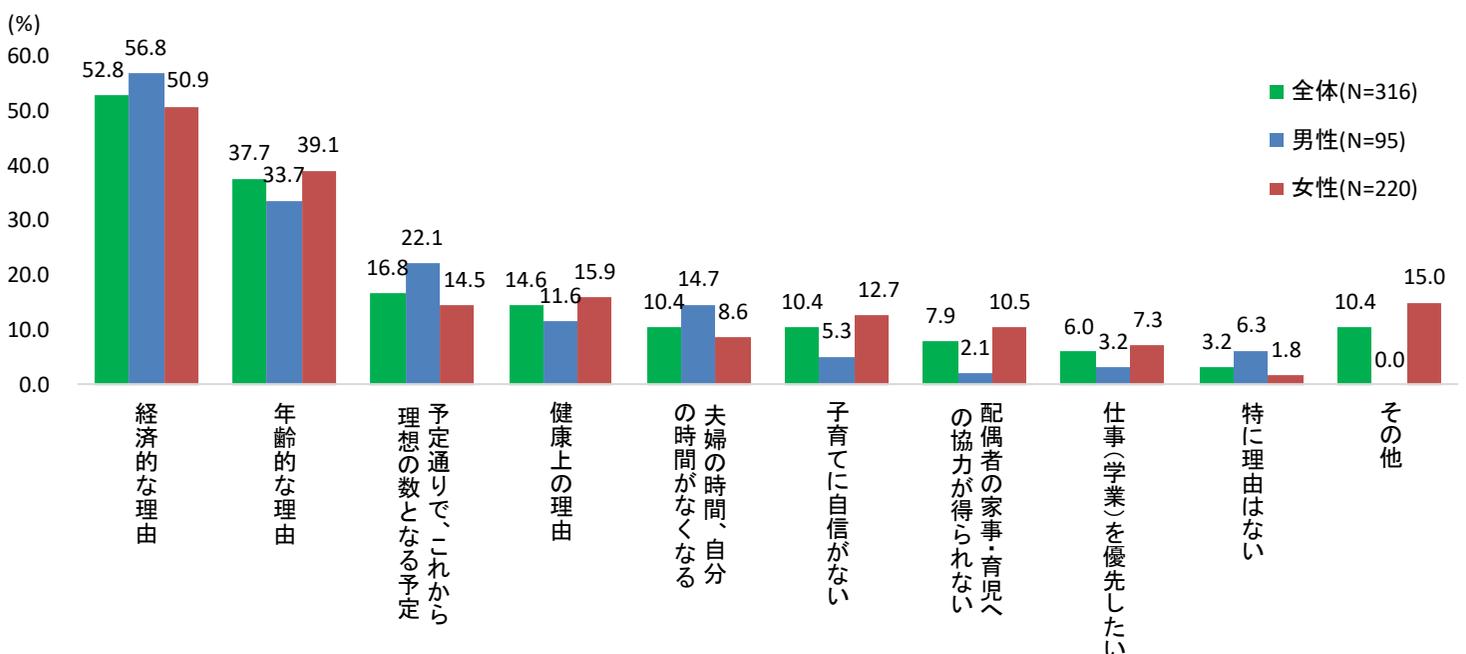
- お子さんがいる方の理想の子ども人数は、「3人」が45.3%と最も多く、次いで「2人」が全体で43.8%となっており、この2項目で全体の約9割を占める。
- 男女別で見ると、男性では「2人」と回答した人が47.8%、「3人」と回答した人が42.4%に対し、女性では「3人」と回答した人が46.6%となっており「2人」と回答した人42.0%を上回っている。



■理想より子どもの数が少ない理由

－（お子さんがいる方に）理想より子どもの数が少ない理由として、あてはまるものを選んでください（3つ以内）－

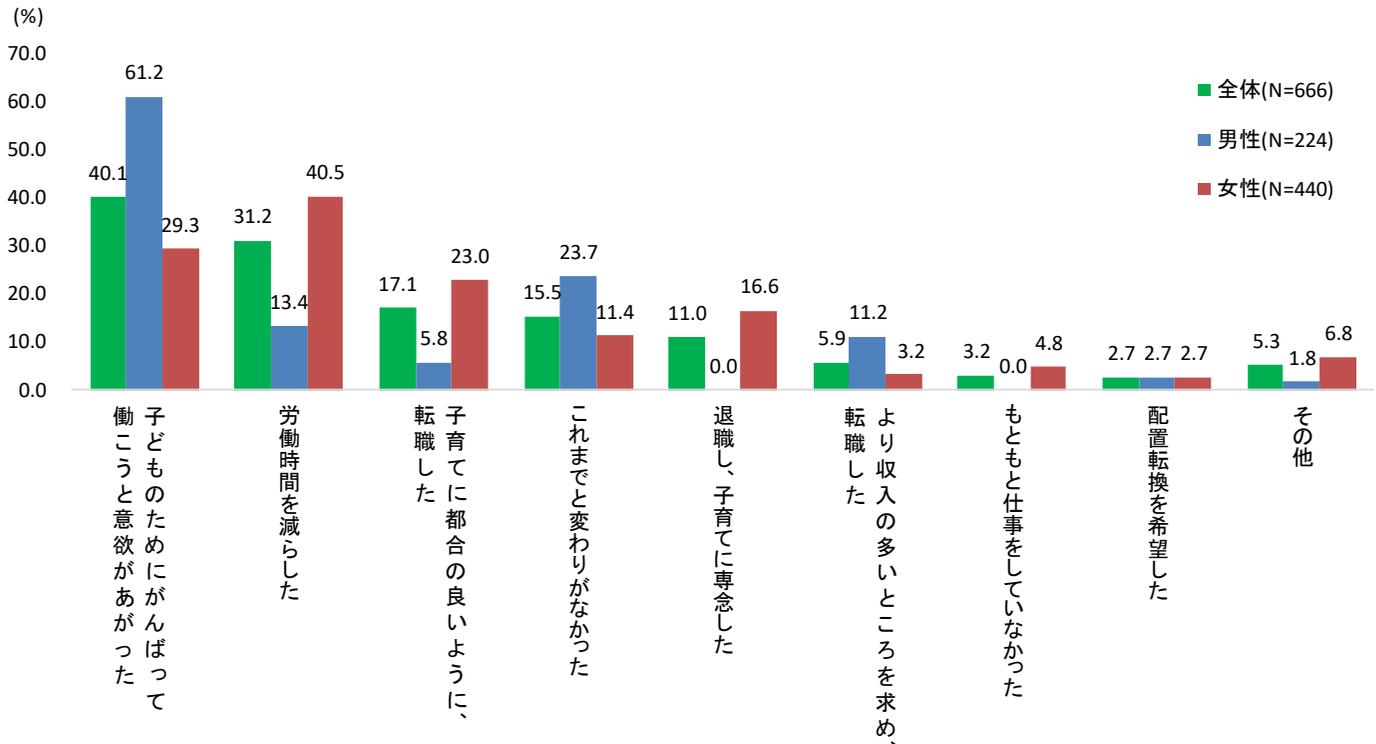
- お子さんのいる方で、「経済的な理由」が最も多く、全体で52.8%（男性56.8%、女性50.9%）〔前回調査：全体47.1%（男性47.4%、女性47.5%）〕と男女共に最も多い理由となっている。
- 次いで多い理由は、「年齢的な理由」全体で37.7%（男性33.7%、女性39.1%）〔前回調査：全体24.1%（男性24.8%、女性23.8%）〕と前回よりも増加している。



■子どもが生まれた後の働き方の変化

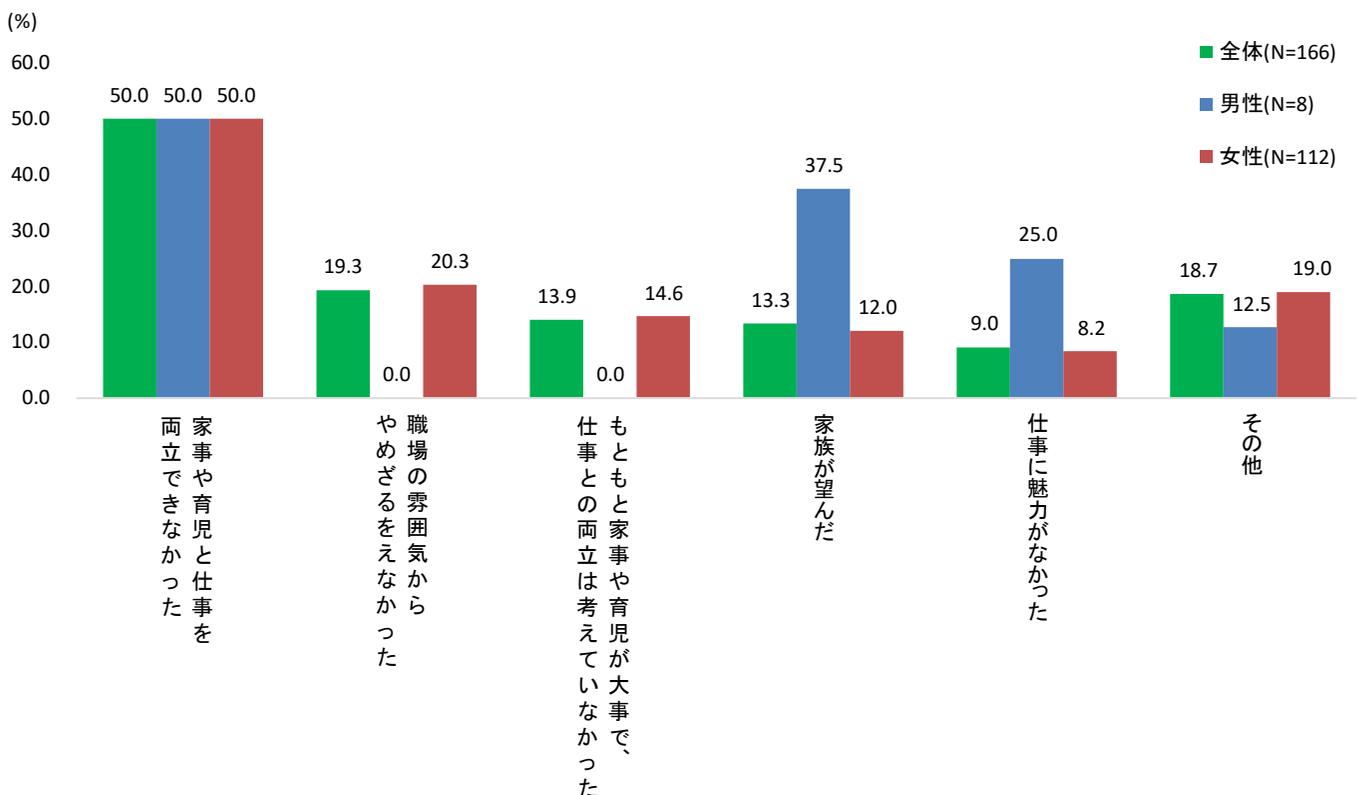
—お子さんが生まれたことによって、
あなたの働き方に変化がありましたか— (2つ以内)

- 「子どものためにがんばって働こうと意欲があがった」が全体で40.1%（男性61.2%、女性29.3%）と一番多く、特に男性の数値が高い。前回調査と傾向は同じである。
- このほか、男性では「これまでと変わりがなかった」（23.7%）が、女性では「労働時間を減らした」（40.5%）が多くなっている。



■仕事を辞めた理由 —（出産、育児を機に仕事を辞めた方に）仕事を辞めた主な理由としてあてはまるものを選んでください— (3つ以内)

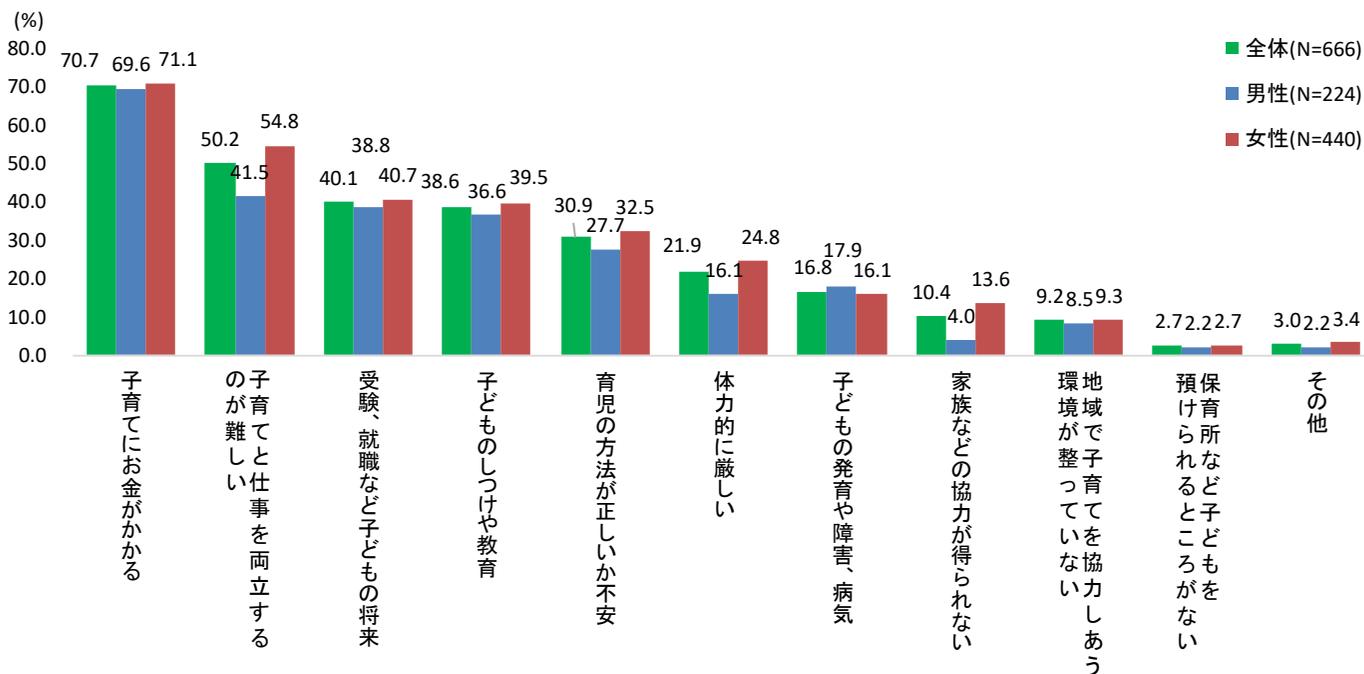
- 仕事を辞めた理由としては、「家事や育児と仕事を両立できなかった」が50.0%〔前回調査：全体40.3%〕と最も多く、次いで「職場の雰囲気からやめざるをえなかった」が19.3%〔前回調査：全体19.5%〕で続いている。



■子育てに関する悩み

—子育てに関して悩んでいることはありますか（あてはまるものをすべて選択）—
 [子どもがいる方]

- 子育てに関する悩みとして、一番多いのは「子育てにお金がかかる」が全体で70.7%(男性69.6%、女性71.1%)と、男女とも最も多く挙がっており、前回調査と傾向は変わらない。
- 二番目に多い理由は、「子育てと仕事を両立するのが難しい」が全体で50.2%(男性41.5%、女性54.8%)となっており、三番目に多い理由は、「受験、就職など子どもの将来」が全体で40.1%(男性38.8%、女性40.7%)となっている。
- 前回調査で「子どものしつけや教育」が44.4%と二番目だったが、今回調査では38.6%と四番目になっている。

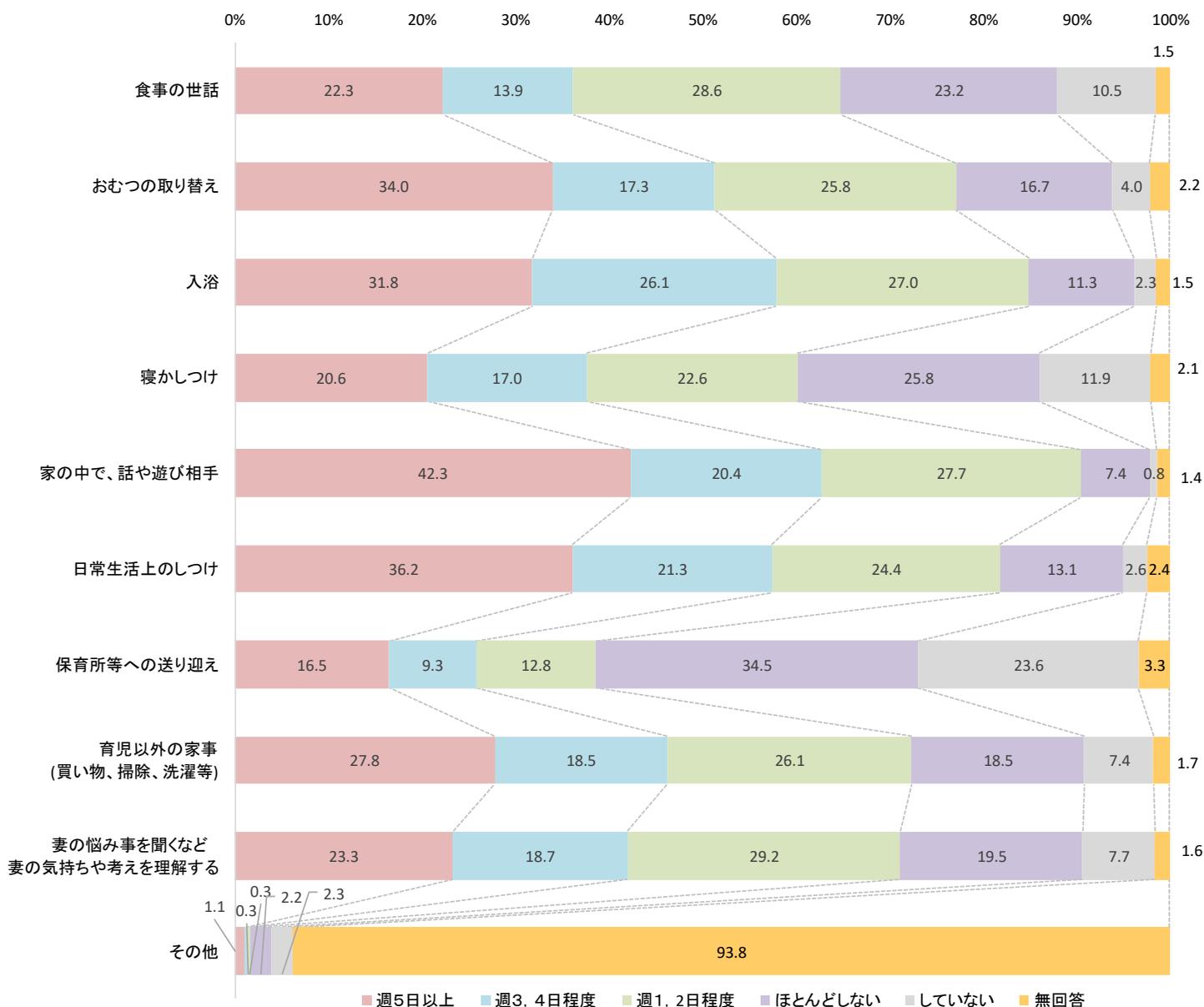


■父親の育児・家事の頻度

ー（配偶者がいる方に）小学校入学前の育児や家事について父親が行っている（行っていた）頻度はどのくらいですかー
 ※父親は自身の、母親は父親の状況を回答

「父親が行っている育児・家事の頻度」は、

- 「週5日以上」の頻度では「家の中で、話や遊び相手」が42.3%と最も多く「保育所等への送り迎え」が16.5%と最も少ない。
- 「週3、4程度の頻度」では「日常生活上のしつけ」が21.3%と最も多く「保育所等への送り迎え」が9.3%と最も少ない。
- 「週1、2日程度の頻度」では「妻の悩み事を聞くなど妻の気持ちや考えを理解する」が29.2%と最も多く「保育所等への送り迎え」が12.8%と最も少ない。
- 「ほとんどしない」では「保育所等への送り迎え」が34.5%と最も多く「家の中で、話や遊び相手」が7.4%と最も少ない。
- 同様に「していない」でも、「保育所等への送り迎え」が23.6%と最も多く「家の中で、話や遊び相手」が0.8%と最も少ない。

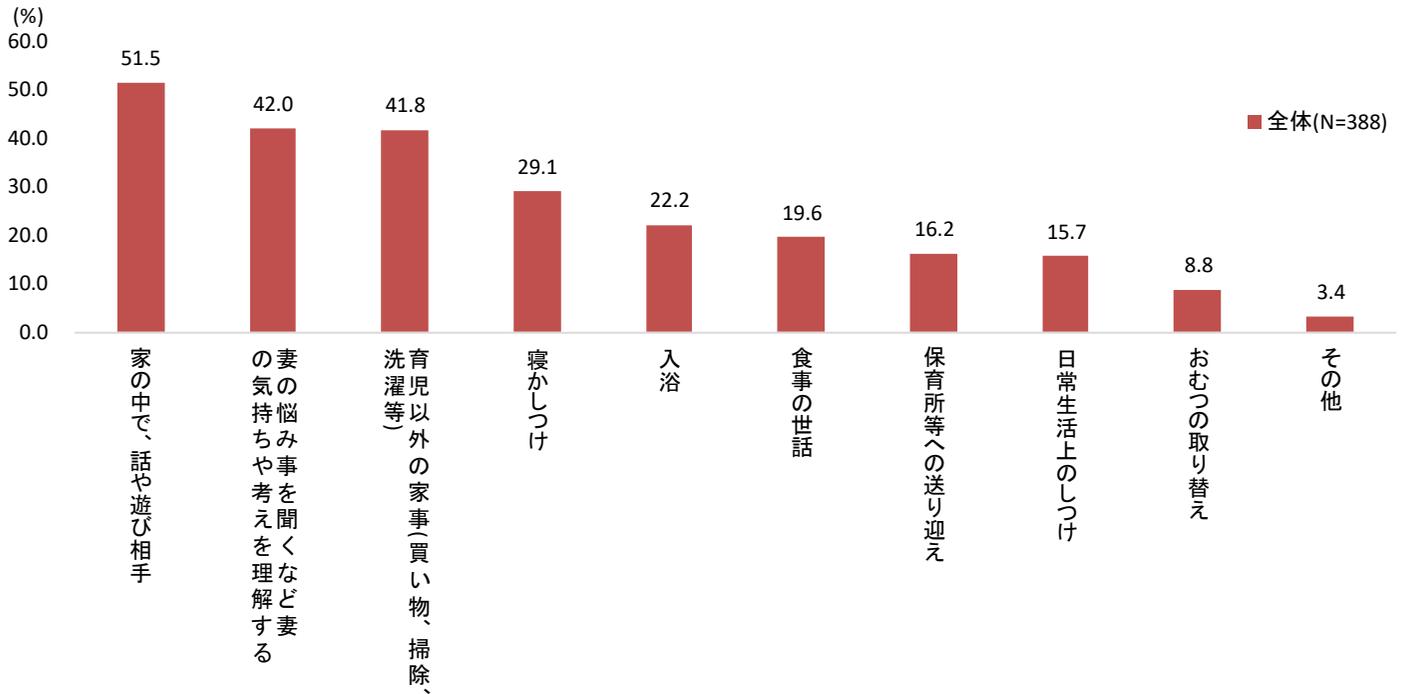


■父親に行って欲しい育児・家事の内容

－（母親の方に）父親に行ってほしい（ほしかった）
ことは何ですか－

（3つ以内）

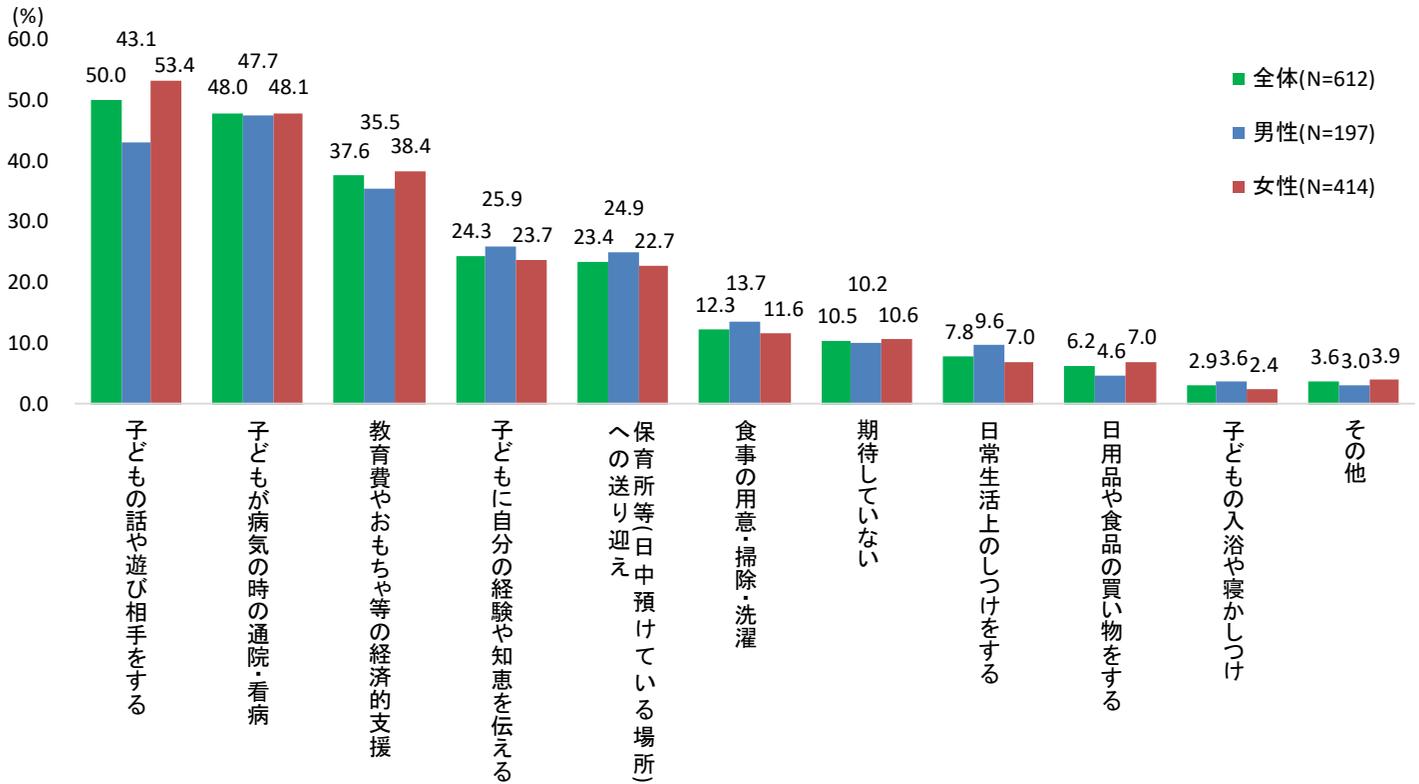
○全体では、「家の中で、話や遊び相手」が51.5%〔前回調査では二番目：35.9%〕と最も多くなっており、次いで「妻の悩み事を聞くなど妻の気持ちや考えを理解する」が42.0%〔前回調査では三番目：31.0%〕、「育児以外の家事（買い物、掃除、洗濯等）」が41.8%〔前回調査では一番目：37.7%〕となっている。



■ 祖父母に期待する支援

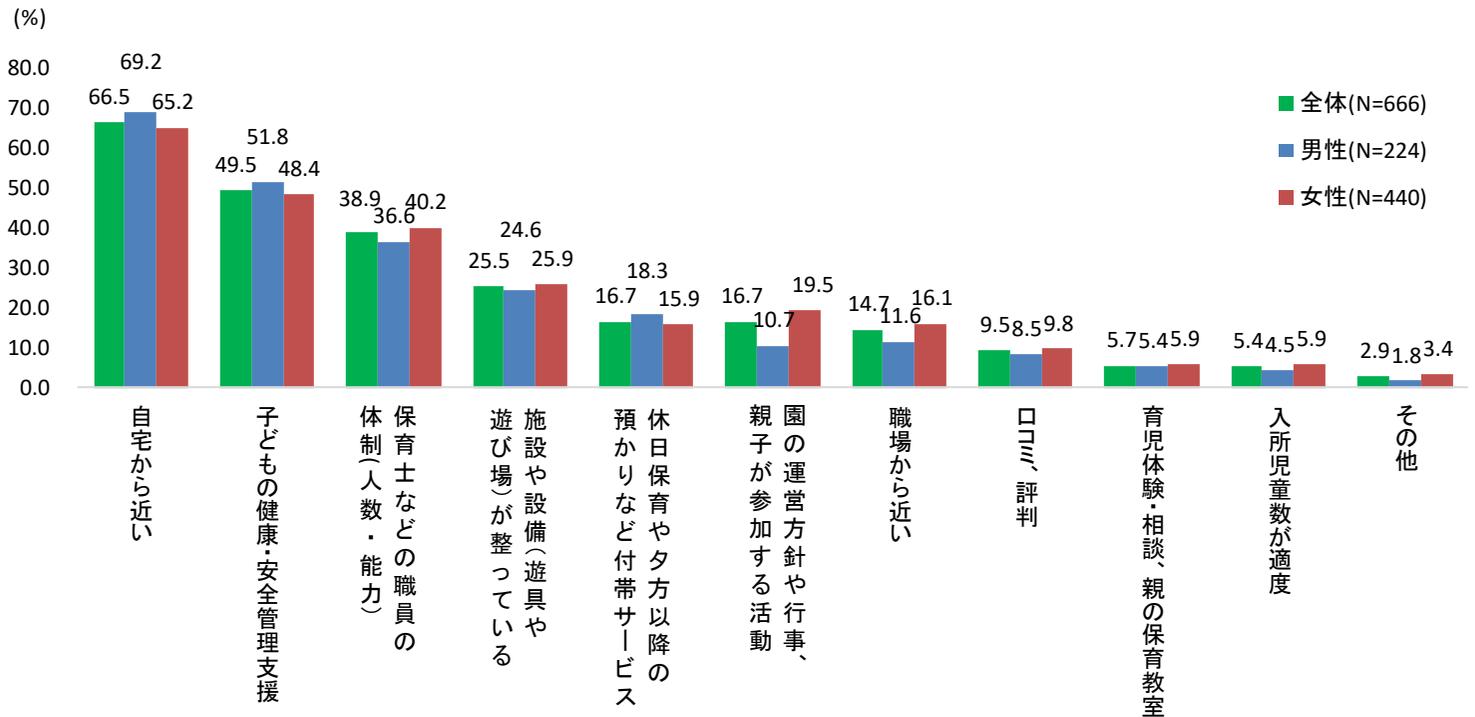
－（お子さんの祖父・祖母いる方に）
 祖父・祖母に期待する支援は何ですか－（3つ以内）

- 全体では「子どもとの話や遊び相手をする」が最も多く50.0%となっている。
- 次いで「子どもが病気の時の通院・看病」が48.0%となっている。
- ともに女性の方が多く回答している



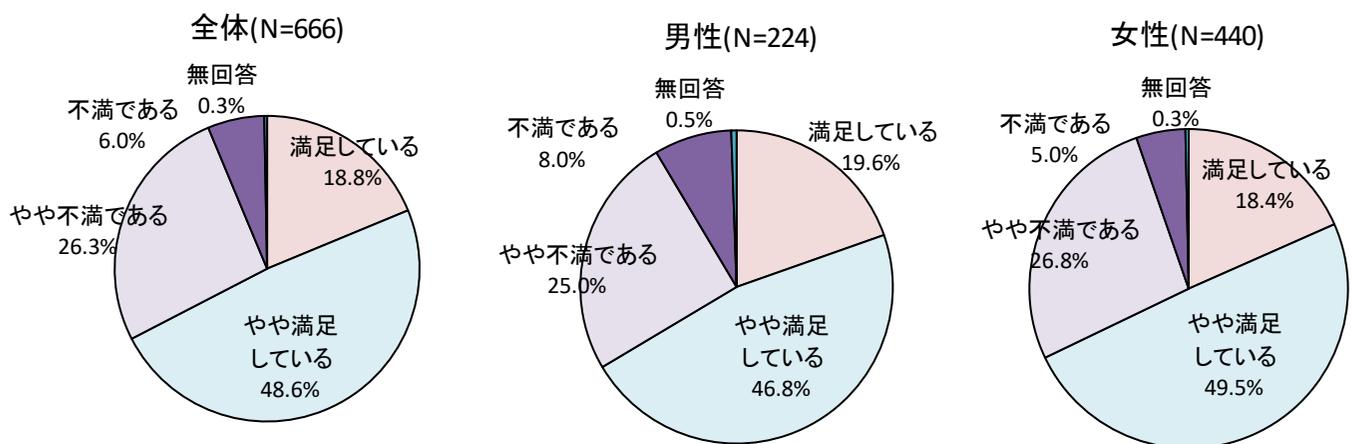
■保育所・幼稚園で重視すること

- 保育所・幼稚園を利用するにあたって重視することとして、一番多いのは「自宅から近い」が全体で66.5%(男性69.2%、女性65.2%)と、男女とも特に多く挙げられている。
- 二番目は、「子どもの健康・安全管理支援」が全体で49.5%(男性51.8%、女性48.4%)となっている。男女とも上位2項目の順位は同じである。
- その他「保育士などの職員の体制」全体で38.9%(男性36.6%、女性40.2%)と続く。



■石川県での子育てのしやすさ

- 「満足している」「やや満足している」の合計は全体で67.4%(男性66.5%、女性67.9%)、「やや不満である」「不満である」全体で32.3%(男性33.0%、女性31.8%)と満足の高割合になっている。



■ 前問で「満足している」「やや満足している」と回答した人が、
子どもの成長段階に応じて子育てがしやすいと感じる理由

- 「妊娠・出産時期」では、「母子保健サービス」25.6%、「祖父母など家族の支援」25.2%が主な理由として挙げられている。
- 「新生児・乳児期」では、「祖父母など家族の支援」29.8%、「母子保健サービス」25.6%が主な理由として挙げられている。
- 「幼児期」では、「子どもが日常的に利用するサービス」46.1%、「祖父母など家族の支援」26.7%が主な理由として挙げられている。
- 「小学校（低・中学年）期」では「祖父母など家族の支援」19.4%、「子どもが日常的に利用するサービス」18.9%が主な理由として挙げられている。
- 「小学校（高学年）期」では、「医療支援」13.4%、「配偶者の支援」10.9%が主な理由として挙げられている。
- 「中・高校生期」では、「医療支援」10.9%、「経済的な支援」10.7%が主な理由として挙げられている。
- 「高校卒業以降」では、「経済的な支援」8.2%、「配偶者の支援」「祖父母など家族の支援」5.8%が主な理由として挙げられている。

全体(N=449)		子育てしやすい理由											
		専門機関による相談支援	母子保健サービス	子どもが日常的に利用するサービス	多様な子育て支援サービス	配偶者の支援	祖父母など家族の支援	近隣地域・住民による支援	職場の支援	経済的な支援	就労支援	医療支援	その他
子どもの成長段階	妊娠・出産時期	③24.9	①25.6	7.3	5.6	23.4	②25.2	4.2	14.9	13.6	3.1	17.6	0.4
	新生児・乳児期	15.1	②25.6	21.4	16.0	③22.7	①29.8	6.7	13.1	12.5	3.8	21.8	0.4
	幼児期	6.7	5.3	①46.1	17.8	22.0	②26.7	6.0	15.4	12.7	3.6	③24.3	1.1
	小学校（低・中学年）期	1.6	0.4	②18.9	6.2	15.6	①19.4	7.8	10.5	11.8	2.0	③17.6	0.4
	小学校（高学年）期	1.3	0.2	3.3	3.1	②10.9	③10.7	5.1	5.1	8.7	2.0	①13.4	0.2
	中・高校生期	0.7	0.2	0.2	0.4	③ 8.2	7.3	3.1	3.1	②10.7	2.0	①10.9	0.2
	高校卒業以後	0.2	0.0	0.2	0.0	② 5.8	② 5.8	0.7	1.8	① 8.2	2.7	③ 5.6	0.2

■ 前問で「やや不満である」「不満である」と回答した人が、
子どもの成長段階に応じて子育てがしにくいと感じる理由

- 「妊娠・出産時期」では、「経済的な支援」38.6%「専門機関による相談支援」「職場の支援」21.4%が主な理由として挙げられている。
- 「新生児・乳児期」では、「経済的な支援」42.8%、「多様な子育て支援サービス」24.7%が主な理由として挙げられている。
- 「幼児期」では、「経済的な支援」40.9%、「多様な子育て支援サービス」30.7%が主な理由として挙げられている。
- 「小学校（低・中学年）期」では「経済的な支援」41.4%、「職場の支援」19.1%、が主な理由として挙げられている。
- 「小学校（高学年）期」では、「経済的な支援」36.7%、「医療支援」13.5%が主な理由として挙げられている。
- 「中・高校生期」では、「経済的な支援」42.3%、「医療支援」14.9%が主な理由として挙げられている。
- 「高校卒業以降」では、「経済的な支援」37.2%、「医療支援」12.6%が主な理由として挙げられている。

		必要な支援											
		専門機関による相談支援	母子保健サービス	子どもが日常的に利用するサービス	多様な子育て支援サービス	配偶者の支援	祖父母など家族の支援	近隣地域・住民による支援	職場の支援	経済的な支援	就労支援	医療支援	その他
全体(N=215)													
子どもの成長段階	妊娠・出産時期	②21.4	③20.0	7.0	10.7	15.8	8.8	6.0	②21.4	①38.6	7.9	16.7	3.7
	新生児・乳児期	16.3	③20.5	15.8	②24.7	15.8	11.2	8.4	19.1	①42.8	11.2	18.6	6.0
	幼児期	10.2	5.1	③29.8	②30.7	14.0	12.6	7.9	22.3	①40.9	11.6	18.1	5.6
	小学校（低・中学年）期	4.7	0.9	③18.1	15.8	9.3	8.8	5.6	②19.1	①41.4	8.4	③18.1	2.8
	小学校（高学年）期	1.9	0.5	6.0	5.1	7.0	5.1	4.7	③10.2	①36.7	4.2	②13.5	1.4
	中・高校生期	1.9	0.5	0.9	2.8	5.1	4.2	3.7	③7.9	①42.3	4.2	②14.9	1.4
	高校卒業以後	0.9	0.5	0.5	1.9	4.7	2.8	2.8	5.6	①37.2	③8.4	②12.6	0.9

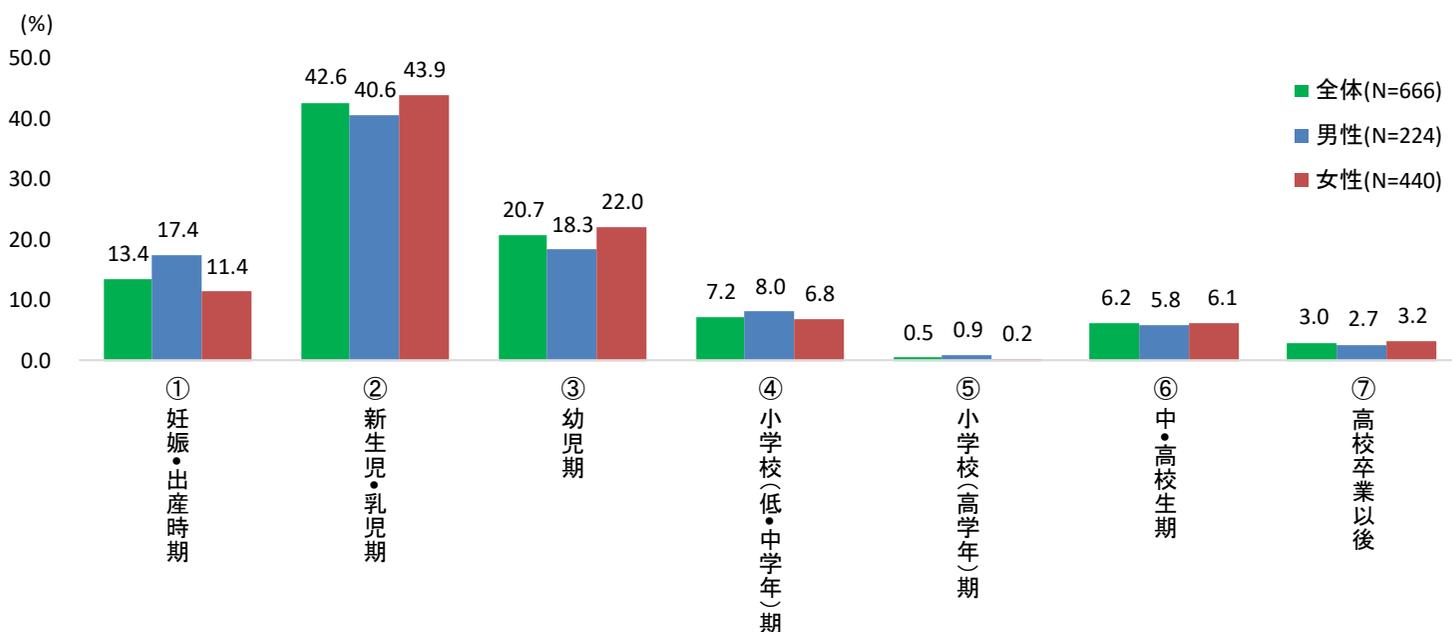
■ 子育て支援が必要な時期

—それぞれの成長段階で子育て支援が必要だと思う時期は、いつですか—

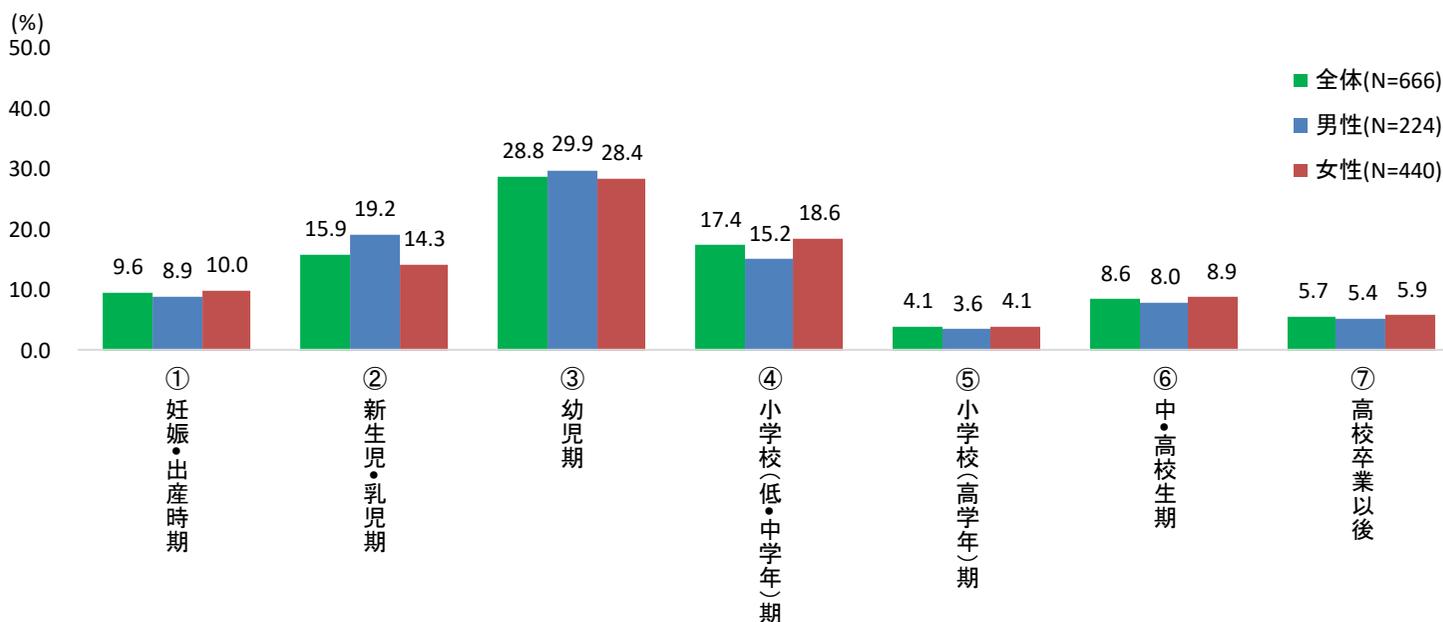
○最も必要な時期は「新生児・乳児期」が全体で42.6%(男性40.6%、女性43.9%) [前回調査：全体40.4%(男性35.5%、女性44.3%)] となっており、前回調査と傾向は変わらない。

○次に必要な時期は「幼児期」が全体で28.8%(男性29.9%、女性28.4%) [前回調査：全体28.6%(男性24.4%、女性31.7%)] となっており、前回調査と傾向は変わらない。

[最も必要な時期]



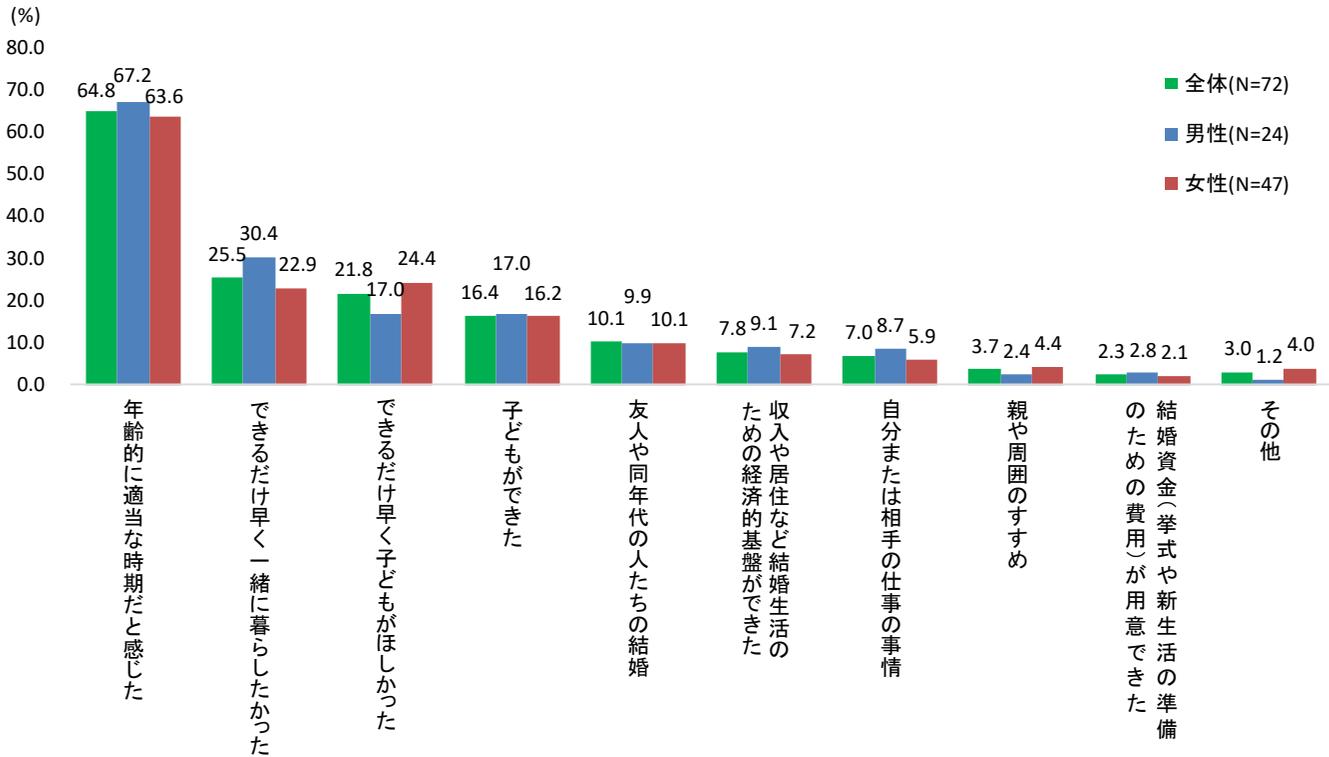
[次に必要な時期]



4. 結婚に対する意識

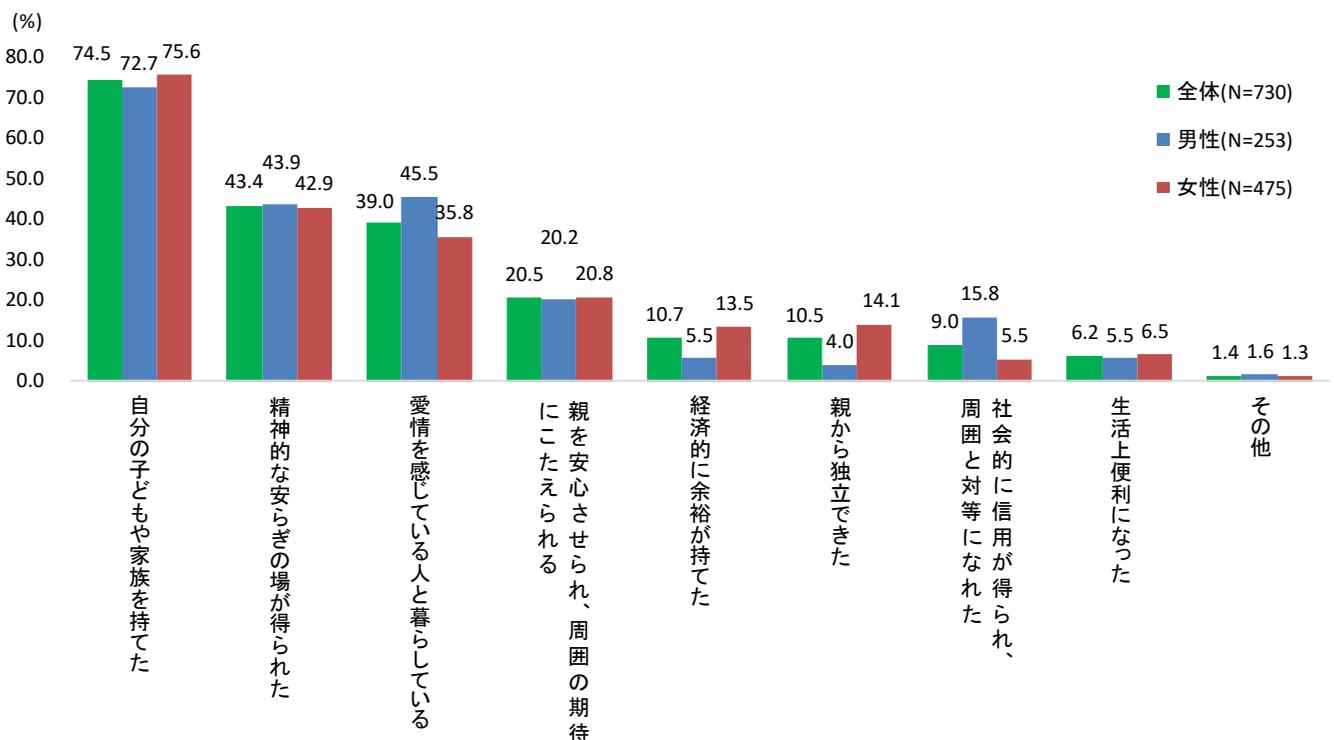
■結婚を決めた直接のきっかけ

- 一番多いものは、「年齢的に適当な時期だと感じた」が全体で64.8%(男性67.2%、女性63.6%)となっている。
- 二番目に多い理由は、「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」が全体で25.5%(男性30.4%、女性22.9%)、三番目は「できるだけ早く子どもがほしかった」が全体で21.8%(男性17.0%、女性24.4%)となっており、一番目以降の理由とは大きく差が開いている。



■結婚したことによって感じたこと

- 一番多いものは、「自分の子どもや家族を持てた」が全体で74.5%(男性72.7%、女性75.6%)となっている。
- 二番目に多い理由は、「精神的な安らぎの場が得られた」が全体で43.4%(男性43.9%、女性42.9%)となっている。

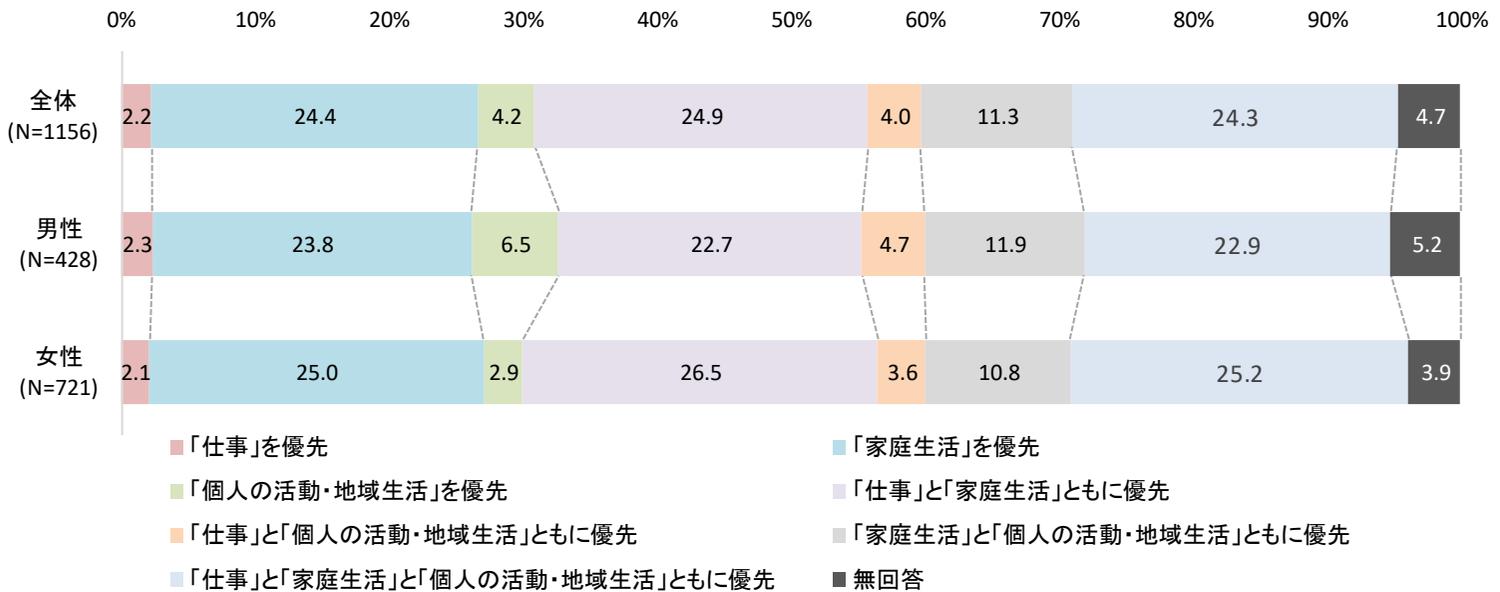


5. ワークライフバランスに関する意識

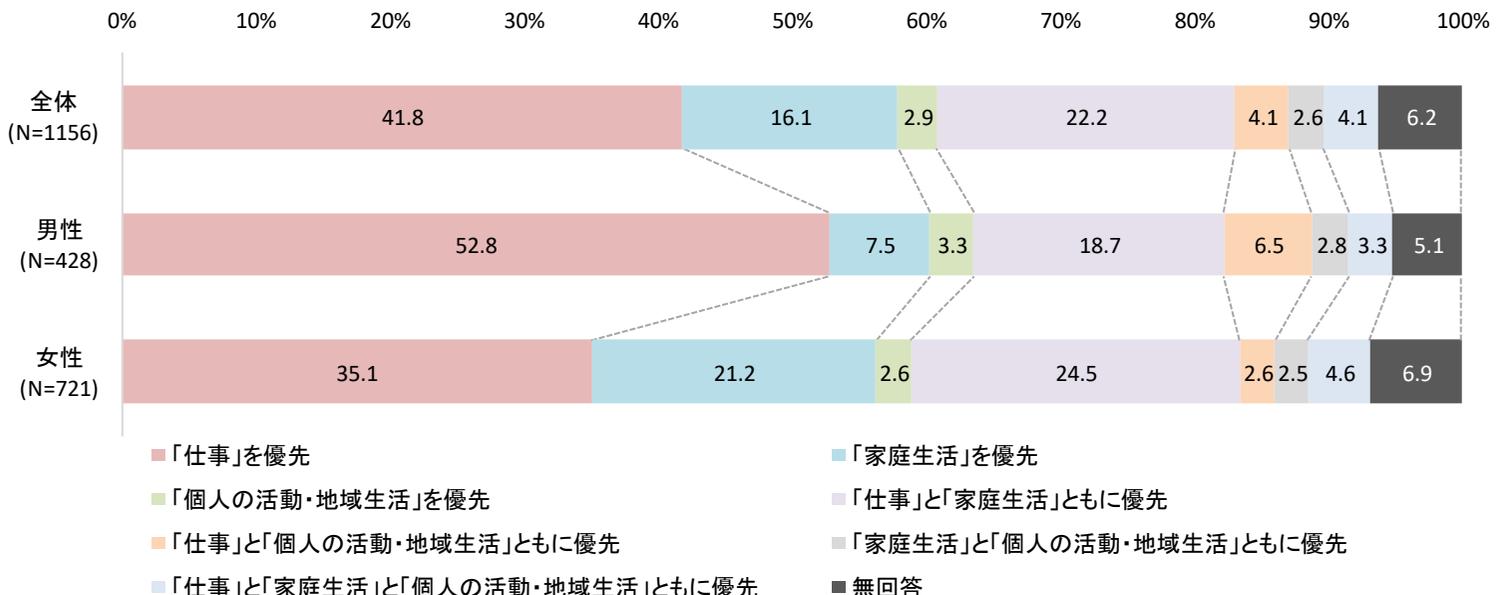
■ 「仕事」「家庭生活」「個人の活動・地域生活」の優先度

ー生活の中で「仕事」「家庭生活」「個人の活動・地域生活」の優先度について、
【希望】と【現実】それぞれ最も近いものを選んでくださいー

- 【希望】** ○ 「仕事と家庭生活ともに優先」が全体24.9%(男性22.7%、女性26.5%)と、全体で最も多い。2位以下は「家庭生活を優先」が全体24.4%(男性23.8%、女性25.0%)、「仕事と家庭生活と個人の活動・地域生活」が全体24.3%(男性22.9%、女性25.2%)と大きな差は見られない。
[前回調査では、「仕事と家庭生活と地域生活ともに優先」(29.8%)、「仕事と家庭生活を優先」(24.3%)、「家庭生活を優先」(19.6%)の順となっており、今回調査と順番が変わっている。]



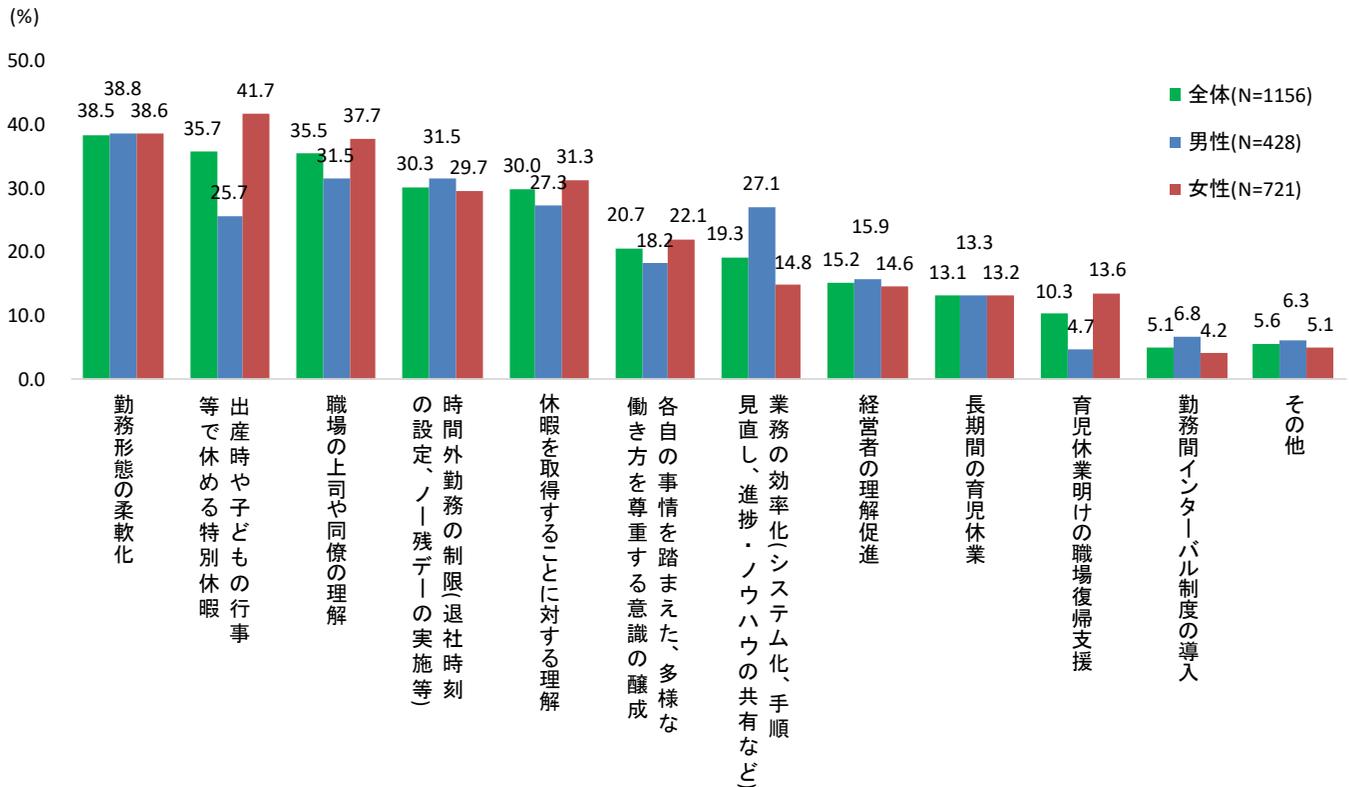
- 【現実】** ○ 「仕事を優先」が全体41.8%(男性52.8%、女性35.1%)と、全体で最も多い。2位以下は「仕事と家庭生活ともに優先」が全体22.2%(男性18.7%、女性24.5%)と、「家庭生活を優先」が全体16.1%(男性7.5%、女性21.2%)となっており、大きな差は見られない。
○ 前回調査と傾向は変わらない（「仕事を優先」(40.5%)、「仕事と家庭生活を優先」(28.6%)、「家庭生活を優先」(14.1%)）



■ワークライフバランス実現に職場に必要なこと

－ワークライフバランスを実現するために、職場において何が必要だと思いますか（3つ以内）－

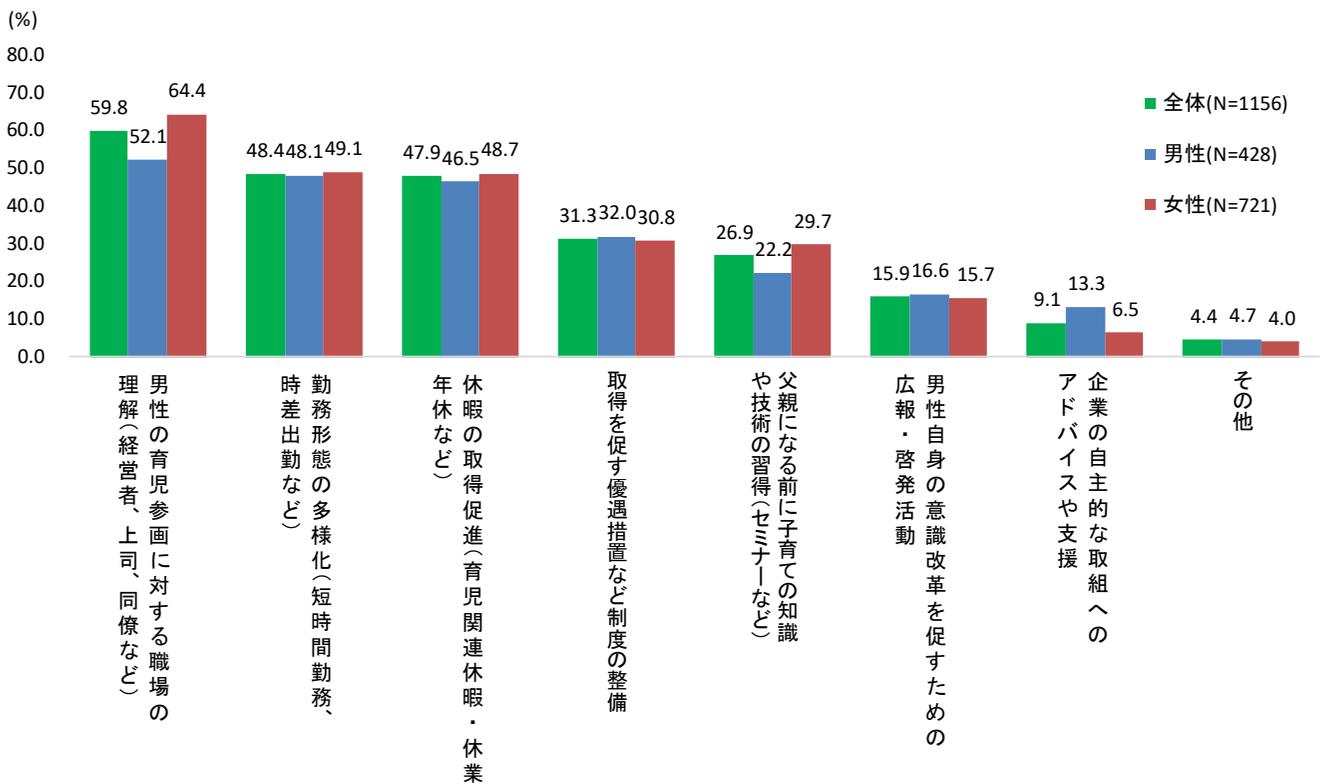
- 「勤務形態の柔軟化」が全体で38.5%(男性38.8%、女性38.6%)と最も多く、次いで「出産時や子どもの行事等で休める特別休暇」が全体で35.7%(男性25.7%、女性41.7%)となっている。
- 性別でも、男性では「勤務形態の柔軟化」が38.8%で一番多く、女性では「出産時や子どもの行事等で休める特別休暇」が41.7%と最も多くなっている。



■男性の育児参画を促すために必要なもの

－男性の育児参画を促すために何が必要だと思いますか（3つ以内）－

- 「男性の育児参画に対する職場の理解（経営者、上司、同僚など）」が全体59.8%(男性52.1%、女性64.4%)と最も多い。2位以下は「勤務形態の多様化（短時間勤務、時差出勤など）」が全体で48.4%(男性48.1%、女性49.1%)、「休暇の取得促進（育児関連休暇・休業、年休など）」が全体で47.9%(男性46.5%、女性48.7%)と大きな差は見られない。

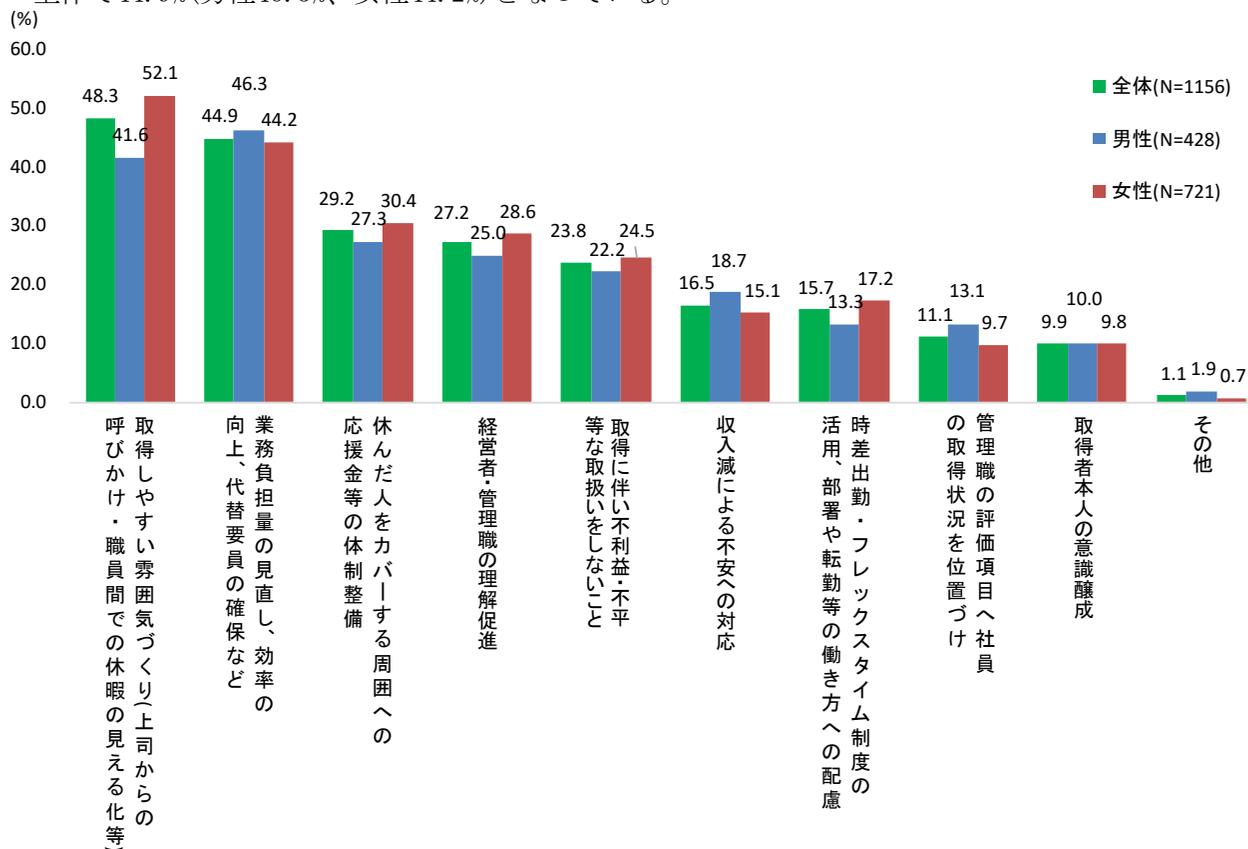


■年次有給休暇を取得しやすい環境整備に必要な行政の支援

一年次有給休暇や男性の育児休暇を取得しやすい環境の整備のために必要な行政の支援は何だと思いますか（2つ以内）

(a) 年次有給休暇

- 「取得しやすい雰囲気づくり(上司からの呼びかけ・職員間での休暇の見える化等)」が全体で48.3%(男性41.6%、女性52.1%)と最も多く、次いで「業務負担量の見直し、効率の向上、代替要員の確保など」が全体で44.9%(男性46.3%、女性44.2%)となっている。



■男性の育児休業を取得しやすい環境整備に必要な行政の支援

一年次有給休暇や男性の育児休暇を取得しやすい環境の整備のために必要な行政の支援は何だと思いますか（2つ以内）

(b) 男性の育児休業

- 「取得しやすい雰囲気づくり」が全体で40.0%(男性36.2%、女性42.4%)と最も多い。
- 2位以下は「業務負担量の見直し、効率の向上、代替要員の確保など」「休んだ人をカバーする周囲への応援金等の体制整備」「経営者・管理職の理解促進」と大きな差は見られない。

